

日本医歯薬専門学校 2024年度 学校関係者評価委員会 議事録

作成者: 奥田 直子

日時	2024年5月19日(日) 10:00 ~ 12:00
場所	日本医歯薬専門学校 2階 201.202 教室・Online(ZOOM)
目的	保護者、地域住民、業界、卒業生の代表者委員により、教育活動やその他学校運営の状況について評価を行う。この評価を、今後の学校経営や教育活動の改善に反映するとともに、広く公表するために実施する。
参加者	<p>●学校関係者評価委員会 委員</p> <p><保護者代表> 熊谷 いず美(歯科衛生士学科 I 部3年 保護者)</p> <p><保護者代表> 三村 久美子(視能訓練士学科 I 部3年 保護者)</p> <p><高等学校代表> 及川 勉(昭和第一学園高等学校 理事)</p> <p><卒業生代表> 下里 保奈美(歯科衛生士学科 II 部 卒業生)※オンライン</p> <p><業界代表> 真砂 功(杉並区歯科医師会 会長)</p> <p><業界代表> 富田 基子(東京都歯科衛生士会 顧問)</p> <p><業界代表> 東 恵子(杉並区眼科医会 会長)※オンライン</p> <p><業界代表> 篠原 陽子 (日本チェーンドラッグストア協会 ヘルス・アンド・ビューティケア 人材育成センター 事務局長)</p> <p>●学校法人東京滋慶学園 日本医歯薬専門学校 教職員</p> <p><学校長> 須田 英明</p> <p><学校法人 東京滋慶学園 評議員> 岩村 勇</p> <p><事務局長> 関口 崇之</p> <p><事務局次長> 植田 慎司</p> <p><教務部長> 富田 恒雄</p> <p><歯科衛生士学科 学科長> 星野 悠</p> <p><視能訓練士学科 学科長> 今井 哲也</p> <p><登録販売者学科 学科長> 今井 恭平</p> <p><キャリア業界連携センター センター長> 小島 修</p> <p><学生サービスセンター センター長> 保科 英俊</p> <p><広報センター センター長> 奥田 直子</p>
議題	進行: 富田 恒雄
1. はじめに(須田)	<p>本日はご多忙の中ご参加いただきありがとうございます。</p> <p>2001年6月、当時学校評価のシステムがまだ確立されていなかったときに開催された教育に関する国際会議にて、我が国における自己点検・自己評価システムについて報告をした際、「自己点検・自己評価というのは第三者評価があってはじめて正当化されるべきだ」という意見があり、その通りだと感じた。</p> <p>今日、本校が地域・社会、企業・業界が望む教育が行われているのか？ 頂いた意見をしっかり取り入れていきたい。</p>
2. 評価委員・学園職員紹介(植田)	※上記参照
3. 会の目的について(関口)	<p>・学校関係者評価委員会の趣旨</p> <p>業界・卒業生・保護者など学校が選任した『学校関係者』で構成され、意見交換を通じて自己評価について評価・助言をいただき今後の学校運営の改善を図るために実施する。その内容をとりまとめ公表し自己評価結果の客観性透明性を高める。また、この会を通して職業実践専門課程として認定いただく。</p> <p>【職業実践専門課程とは】</p> <p>専修学校の専門課程であって、職業に必要なより実践的かつ専門的な能力を育成するために専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを「職業実践専門課程」</p>

として文部科学大臣が認定することにより専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。

・評価方法について

文部科学省が設定する項目に基づいた自己点検・自己評価(学内で実施済)を元に二次評価いただく。中項目総括(自己点検評価の要約版)と大項目に対して評価(3優れている、2適切、1改善が必要)とコメントをお願いしたい。

4. 2024 年度

自己点検・自己
評価報告

【基準 1:教育理念】植田

滋慶学園グループは「職業人教育を通して社会に貢献する」というテーマを掲げている。

見学の理念「実学教育・人間教育・国際教育」の 3 つの理念をもって教育を行っている。

専門職業教育×キャリア教育×産学連携教育(業界と直結)について手元資料の学生便覧(35、36 ページ参照)に具体的な教育活動が明文化されている。学生便覧は新学期に学生と読み合わせしている。

【基準 2:学校運営】植田

学校事業計画を定めている。(会場にて資料閲覧可能)

特に職員の教授力向上に力を入れている

例)滋慶学園グループの FD 研修

ミクロレベル(新入職向け)、ミドルレベル(カリキュラム、学科マネジメント)、マクロレベル(学校運営)、

【基準 3:教育活動】富田

3-9-1~3-9-4 を主に紹介する。

授業アンケートの実施を通して授業の改善を図っている。(会場にて資料閲覧可能)

プライベートレッスン(授業外の講座や個別サポート)について 2023 年度より全学科で実施。(動画紹介:サージテル拡大鏡講座)年間 10~20 回開催。

【基準 4:教育成果】富田

4-13-1

内定:176 名/就職希望者:176 名(就職率 100%)

第 1 専門職:175 名/176 名

求人件数 1130/求人総数 2411

支援体制としてスマートフォンを活用して基本的な質問・疑問はいつでも対応できるようになった。

(面接準備について動画紹介)

求人票に関してもこれまで紙で学校に保管していたが、基本情報や過去の履歴をアプリから検索・確認できるようになった。

4-14-1

2023 年度国家試験合格実績(新卒)

歯科衛生士学科 I 部 95.8%(合格者 69 名/受験者 72 名) 全国平均 95.1%

歯科衛生士学科 II 部 100%(合格者 62 名/受験者 62 名) 全国平均 95.1%

視能訓練士学科 I 部 96.4%(合格者 27 名/受験者 28 名) 全国平均 97.8%

視能訓練士学科 II 部 89.6%(合格者 26 名/受験者 29 名) 全国平均 97.8%

国家試験全員合格に向けての取り組み

滋慶学園国家試験対策センターの活用、スマホアプリ・J-WEB

イシヤク独自の年間計画→模擬試験の実施、3分～5分の250本以上のポイント解説動画の活用

【基準 5:学習支援】富田

2024年度の教育実績

588名の総在籍数に対して退学者数:32名(退学率 5.4%)

退学要因はおもに、精神的な面、1年生の定期試験後の自信喪失、2年生の実習不適應
学科学年ごとに4月～3月の教育フローシートを作成、活用を強化している

5-20-1

保護者様との連携として「三者面談」の実施

3年生保護者対象に「保護者会」の実施

登院式・学習成果発表会の保護者様の参加

【基準 6:教育環境】保科

・臨地臨床実習登録施設数

歯科衛生士学科 217 施設

視能訓練士学科 96 施設

・防災

学生向け防災訓練の実施(地震発生時対応、安否確認システム safetyLink24)

シェイクアウト訓練(身を守る、外へ飛び出さない)

防災管理マニュアル・危機管理マニュアル(会場にて参考資料設置)

【基準 7:学生募集と受け入れ】植田

7-25-2 に関してはオンラインでの情報提供に力をいれている。

公式 LINE にてデジタルパンフレットやオンライン説明会、学校の雰囲気を実際に伝える「在校生トーク
ライブ」などのオンラインコンテンツを通して受験生の不安解消を目指している。

2024年度募集については夜間学科を中心に学生募集に課題があった。

【基準 8:財務】植田

8-31-1 に関しては学校ホームページより情報公開を行っている。

事業計画①～⑥のチェック項目を理事会・評議員会にチェック→承認

【基準 9:法令等の遵守】保科

9-32-1 について、

・2023年度7月「歯科衛生士養成所に関する指導調査(東京都保健医療局)」を実施。適正校として
引き続き承認いただいている。

・合理的配慮、アカデミックハラスメントに関する教員向け研修 2024年2月7日実施

・学校教育にかかわる文書保管についての研修 2024年2月6日実施

・電子帳簿保存法に関する基本情報についての研修 2024年2月6日実施

【基準 10:社会貢献】富田

10-36-1、2

・杉並区と連携:よい歯健口フェスティバル・小学校保育園眼科検診の実施(動画紹介)

<p>5. 2024年度の重点課題(植田)</p>	<p>・地域催事へのボランティアの参加がコロナの影響で数年できていないので、今後はぜひ参加したい</p> <p>【2023年度の重点課題とその達成状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受験生の価値と社会・産業界のニーズの変化に対応した教育価値の創造と構築 →学内に「個別最適化プログラム」プログラムを組織して業界連携を推進した 2 ICT教育の充実とDXシステムへの展開 →1本3分～5分の授業サポート動画を作成。授業環境の整備を実施 3 コンプライアンスに関する整備と安定した運営基盤の構築 →学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会でのヒアリング内容を基に改善を行った <p>【昨年のご意見と実施実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界と直結した業界セミナーを増やすのはどうか？ →オグラ眼科様、SUNSTAR様などとコラボレーションさせていただき講座を実施 ・卒業後も学生と教員の関係性が続くサポートが必要では？ →視能訓練士学科リカレント教育、同窓会の実施 ・学校としての地震の対策を →全学生 safetyLINK アプリ登録(安否確認システム)の運用、備蓄全学生3日分食料の確保 ・夜間部の希望者が減少しているのはメリットがないからでは？ →学科イノベーション:勤務先を臨床実習にできる仕組み ・学校では多くの情報を取り扱うが使用のルールは？ →学園でセキュリティポリシー(HP公開)の設定ならびに学生便覧(P65)に生成AI利活用ガイドラインの制定 <p>【2024年度の重点課題】</p> <p>イシヤクの教育テーマ「効果的効率的な個別最適化された教育価値」の提供</p> <p>なぜ？18歳人口の減少(ピーク時205万→現在106万人→2035年96万人)と学生の多様化、様々な背景(6分類13種)の学生受け入れ</p> <p>個別最適化された学び→学生個々の「興味関心」と「必要感」に応じた学びの場と、学生個々の「能力特性」と「習熟度」に応じた学びの支援</p> <p>ICT・DX化に向けて引き続きMicrosoftTEAMSを活用し、データの蓄積を通して効果的な学びの提供を目指す。</p>
<p>6. 質疑応答 ご意見ご感想</p>	<p>熊谷)一人ひとりに合った教育活動を確認で安心できた</p> <p>三村)これからの時代は専門的なものを身に着けることは強みになると考えており、専門学校を選んでよかったと思う。イシヤクには学生を思う気持ち強い先生が多く、リカレント教育の考え方を説明いただいた際に「在校中だけの関係は嫌なんですよ」という言葉に、この学校を選んでよかったと思った。</p> <p>及川)いろいろなことにチャレンジされているが、その業務が増えることによる先生方の働き方や健康管理はどうか？</p> <p>当校は偏差値51～63で学生数約1800名規模の高等学校だが、進学実績を見ると大学75%、専門学校への進学者約20%、残りは就職など。約20%の生徒たちが、職業を決めて社会に貢献していきたいと考えている事実があることに対してしっかり対応していきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校選びにおいて「学校の雰囲気」については非常に大切。

	<p>真砂)毎年のよい歯健口フェスティバルの協力ありがとうございます。 杉並区訪問歯科診療(1日10名程度)や歯科無料相談など、地域では高齢歯科分野にニーズがある。 高齢分野を中心に歯科衛生士のニーズも高まっている。歯科衛生士が卒業後にどんなキャリアを描いていくのかに関心がある。</p> <p>富田)リカレント教育に注目したい。 歯科衛生士会でも離職防止・復職支援強化している。 ・安否確認システムは学生たちの見えないメリット。</p> <p>篠原)変化する社会や顧客の価値に合った資料のデジタル化やショート動画の対応に評価。 業界もオンライン化しているため参考にしたい。 一方で、人間として「考える力・コミュニケーション」が重要。グループで関わるのが大切であると考えている。</p> <p>東)小児の視覚機能向上、弱視を防ぐことが国の一大プロジェクト(3歳児検診の充実など)。 その中で視能訓練士は弱視児のフォローなど役割が拡大する職種。希望者を増やしていきたい。</p> <p>下里)本会において経年参加しているが、動画や写真がたくさん入り、資料が見やすかった。 プライベートレッスンのセミナーが在校生に好評だったように、卒後セミナーも盛り上げていきたい。 卒業生向けのLINEがさみしいので、入学者と同じようにLINEにコンテンツがあると嬉しい。</p>
<p>8. 事務連絡 (保科)</p>	<p>提出書類に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検・自己評価 評価結果及び改善方法の評価を記入 2. 日当交通費 本日提出か1週間を目途に返送していただきたい。
<p>9. おわりに (岩村)</p>	<p>本日はご参加いただきありがとうございました。</p> <p>4つの信頼【保護者・業界・高等学校・地域からの信頼】を掲げている。みなさまからの信頼なしには学校運営はできない。率直な意見交換ができることが信頼だと思う。皆様から頂戴したご意見をしっかりとまとめて提出をさせていただく。引き続きよろしくお願いいたします。</p>

以上

評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落とし込んでいく。

まずは、「効果的効率的な個別最適化された教育価値」を提供する為にも、ICT・DX化に向けて引き続きMicrosoftTEAMSを活用し、データの蓄積を通して効果的な学びの構築を目指す。

また、業界ニーズを把握し、リカレント教育をはじめとする卒業生支援における質の向上も図っていくことで、卒業生の離職率やキャリアアップへの貢献を目指す。